

# 編集の序

2009年に羊土社より「症例で身につける消化器内視鏡シリーズ 食道・胃ESD」が発刊された。小野裕之先生が編集されており、ITナイフによる部位別・難易度別の治療戦略が包み隠さず提示され、ITナイフユーザーのバイブルとして大好評であった。2015年には改訂版も発売され、多くの若い内視鏡医の必読書となった。

そして今回、その系譜を継ぐ本書のお話をいただいた。ITナイフが世に出てから20年ということで、その集大成にふさわしい本にすべく、ITナイフの生みの親である小野裕之先生が監修を務め、ITナイフをメインで使用されている施設から、国立がん研究センター中央病院（現・総合川崎臨港病院）の小田一郎先生、国立がん研究センター東病院の矢野友規先生、大阪国際がんセンターの上堂文也先生に編集者に加わっていただき最強の布陣が完成した。執筆者は前述3施設に静岡がんセンターを加えた4施設で主にスタッフとして最前線で指導をされてきた、まさに現役バリバリの先生方をお願いさせていただいた。

先生方には内視鏡治療を行うのに必要な知識と技術に関して惜しみなく披露していただいている。特に動画がふんだんに盛り込まれており、文字で読んだことをすぐ具体的にイメージするのに非常に有効である。ITナイフ主体の記載ではあるが、先端系デバイスにも触れ、ストラテジーの違いなどについてわかりやすく解説している。また、姉妹書である「大腸EMR・ESDの基本とコツ」と同様に、事前に若手内視鏡医から日頃の疑問を募集し、それらについて各項で詳しく回答されており、他にはないかゆいところに手が届く内容となっている。

本書はまさに「ITナイフの最終最強攻略本」として、すべてのITナイフユーザーにはもちろん、普段はITナイフを使用しない先生方にもぜひ1冊手元においていただきたい本になったと確信している。ESDトレーニング中の若い先生方はもちろん、中堅の先生方の復習にも役立てばこのうえない喜びである。

最後に非常にお忙しい中、執筆をお引き受けいただいた先生方とこのような機会を与えていただいた鈴木美奈子様をはじめとする羊土社の関係者の皆様方に厚く御礼申し上げる次第である。

2022年4月

交雄会新さっぽろ病院 内視鏡センター長  
滝沢耕平